

占領下の日本

カラーフィルム写真集

衣川太一 編著

空は青く、町は色彩にあふれていた。
誰も見たことのない終戦直後の風景・色。

モノクロ写真で見るとまったく違う風景がある。

進駐軍の米軍人たちによって個人的に撮影された、占領下日本の街や人びと。

米軍人が本国に持ち帰った膨大なフィルムを、

フィルム資料研究者の衣川太一氏が蒐集し、

選択・編集したオールカラーの写真集。

われわれが見逃していた歴史が見えてくる。全100カット収録。

カラーフィルム写真

占領下の日本

焼け跡

武装解除

闇市

食

映画

乗り物

帝劇コミック・オペラ

街と人々

コラム

京都の「色」気

編集者・写真家 都築書一

道ばたから再生する都市

建築家 石博哲和

帝劇社長・秦豊吉の夢の舞台

——占領下で花開いた、日本のミニジカル

ミニジカル研究家 武田春恵



戦後 2025年9/26(金) 発売予定

ご注文の際はこちらのチラシをお近くの書店様へお持ちください

書店様貼合印	草思社	衣川太一 編著	注文
占領下の日本 カラーフィルム写真集			
978-4-7942-2795-9 定価3080円(本体2800円+税)			冊

カラーで撮影された歴史があった



皇軍野戦隊でのパレードに備え、桜田門で待機する第一師団兵隊の足下24時戦車。皇軍とGHQの間に位置する皇軍野戦隊では、占領軍のパレードが頻りに行われた。
(1946-1952年、ヘンリー・H・ソウレン撮影)

【目次内容】

占領下の日本（マッカーサーのたつ星キャデラック、桜田門前の軍用パレード等）／焼け跡（丸根雄一の国会議事堂、空から見た広島原爆の惨状）／武器検査（熊本での飛行機検査、破壊される銃や軍用機等）／国産（新機アーク、横浜東口開港場等）／食（原爆軍向けの商品展開、市場で売られている魚や食品等）／機動（「美濃川と日曜日」がスター、新三輪船所展覧）／音楽（ゴシック・オペラ「新三輪船」、新三輪船）／乗り物（戦艦の砲、水鉄砲等）／新と人（新三輪船、新三輪船の語り等）ほか



日本劇場の真冬の広告看板。当時日本劇場では映画と美談の二本立て興行が行われていた。「素晴るしき日曜日」は1947年の高瀬繁雄監督作品。
(1947年、不明撮影者)



広島市の旧東洋百貨店で行われたNHKの放送テレビジョン実験公開に出演する少女たち。本放送がはじまったのは1953年2月。
(1950年6月5・10日、撮影者不明)

編著者 衣川太一（きぬがわ たいいち）

1970年代前半より、神戸新聞資料館研究員、メディア文化研究所研究員、東京に『占領期カラー写真を探る』（河津洋一）出版、文化新報、2003、『神戸新聞 戦後京都の「色」』がアメリカにあった（上）神戸新聞、衣川太一と共編著、小宮子刊、2003。論文に『占領期写真の戦後史』出版に際して（上）一九四五年東京・銀座のヤースタジオ』（衣川太一）共著、昭和のくらし研究／昭和新聞（第18号、2011年3月）。神戸を舞台とした映画のロケ地を調査する『ロケ地探検』調査は2011年より神戸新聞資料館で展開中。日本大学芸術学部メディア学専攻。